

鎌倉五山をめぐる

曾昭駿
(浙江工商大学)



渡来僧の研究を志し、博士後期課程から関西大学中世史ゼミに入学しました。そこでは五年半学び、「宋元仏教と鎌倉時代禅宗の展開」という博士論文を提出しました。その間、なぜ鎌倉禅の研究をするのに、関西で学んでいるのかと何度も聞かれたことがあります。鎌倉時代の代表的な禅寺が所在する鎌倉の地はもちろん、心のなかの聖地でした。聖地に行くにはそれなりのきっかけが必要でした。そのきっかけを作ってくれたのが非文字資料研究センター海外提携機関招聘若手研究者の採用でした。

今まで文字資料を中心に研究活動をしてきましたが、採用にあたって、以前から気になっていた禅宗寺院における神の空間という課題について現地調査を行うことに

しました。三週間はあっという間でしたが、建長寺・円覚寺をはじめとする五山寺院のほか、静岡の修禅寺、清見寺、乗光寺など十数か所の禅宗寺院を巡りました。また、招聘期間中は、指導教員であった久留島典子先生のご紹介で、東京大学史料編纂所、東京文化財研究所などの研究機関で資料調査をも行うことができました。「文字と非文字、組み合わせて対象を追求していくのが、本来の研究のあり方」という久留島先生のお言葉は今も私の研究の励みとなっております。

宗教史の研究者は年々減っており、寂しい感じがしていましたが、非文字資料研究センターの成果報告会の日にご参加いただいた先生方は分野を問わず、活発な討論をされていました。その博識さはとても印象深かったです。所属先の浙江工商大学は神奈川大学非文字資料研究センターとは2008年、学術交流の協定を結び、その後は研究員の相互派遣、研究出版物の贈呈など多岐にわたり、学術交流活動を展開してきたそうです。そのような博識の方々によって支えられてきたと深く感じ入りました。両校の学術交流の伝統に恥じないよう、新人の自分も今回の訪問調査の経験を生かし、精進していきたいと思っています。

最後に、研究調査中に便宜を図っていただきました非文字資料研究センター、日本常民文化研究所をはじめ、関係者の方々に深くお礼を申し上げます。研究環境も生活環境（六角橋商店街はグルメがいっぱいでした）もめぐまれていた神奈川大学にはまた機会がありましたら、ぜひとも訪問したいと思っています。



写真1 夕暮れの鎌倉（寿福寺トンネル）



写真2 北条氏邸跡

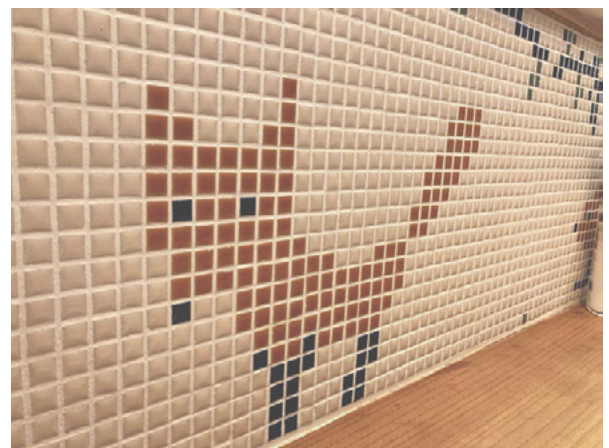


写真3 六角橋商店街のキツネのモザイクタイル